国際日本学研究科

GUIDE BOOK 2024

国際日本学専攻

[修士課程]

NISHOGAKUSHA UNIVERSITY
二松学舎大学 大学院

国際日本学研究科

未来の研究者／企業人として、新たな視座の開拓を。

本研究科には、メディア学、観光学、哲学、美術史、歴史学、中国古典学、言語学、コミュケーション学など、様々な専門分野の教員が在籍しています。3つの研究領域として「文学・文化学領域」「メディア表現学領域」「社会文化領域」を用意し、学際的な研究指導の体制を構築しています。

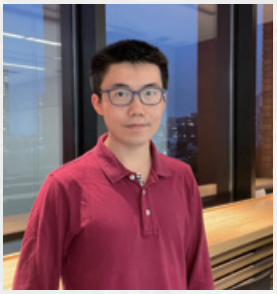
人・モノ・資本・情報がトランスナショナルに移動する「今」を見据え、日本文化の過去と現在を深く理解しつつ、多角的にそれを研究しうる人材、そしてそれを発信しうる人材の育成を目指します。

日本文化の理解に依拠し、その越境的流通を研究する未来志向の専門家を育成。

大学院 国際日本学研究科長
松本 健太郎 教授

「東洋の精神による人格の陶冶」――漢学塾として出発した二松学舎はその創設以来145年を超える歴史のなかで、この言葉を「建学の精神」として掲げながら歩んできました。そして2022年4月、東洋から日本を、そして日本から東洋を、おもに人文社会科学の視座から多角的に研究するための舞台として、国際日本学研究科を開設しました。

いま現在、私たちはインターネットの普及、そして各種ソーシャルメディアの普及を経て、人・モノ・資本・情報の「トランスナショナル」な移動が加速する時代を生きています。そして、そのますます流動化する社会のなかで、文学・マンガ・アニメ・ゲームといった「コンテンツ」の流通や、そのファンたちが織りなす「ポピュラーカルチャー」の組成、さらには、全国各地で企画される「アニメ聖地巡礼／コンテンツツーリズム」の影響など、研究として取り組むべきテーマが続々と浮上しつつあります。国際日本学研究科では「日本文化」「比較文化」「観光文化」などを専門とする多彩な教授陣による指導のもとで研究をすすめ、自らが望む研究者としての／企業人としての未来をデザインすることができます。



修士課程2年
呉 宇恒 さん

私は過去にeスポーツに関する国際大会の運営の仕事をしたり、大阪の専門学校でゲームクリエイターになるための勉強をしたりしてきましたが、近年におけるデジタルゲームの進化を目の当たりにして、それを人文学的な視点からより深く掘り下げてみたいと考え、新設されたばかりの国際日本学研究科へ入学しました。

いま考えている研究テーマは「欧米のビデオゲームにおける和風」で、題材としてはアメリカのゲーム会社が開発した『Ghost of Tsushima』をとりあげるつもりです。本作には、たとえば「サムライ」「和歌」「温泉」などの日本的要素が盛り込まれていますが、グローバル化の潮流に乗って日本のイメージが海外でどう流通しているのか、これから本格的に研究したいと思っています。

修士課程2年
丁 潔 さん

私の研究テーマは「インターネットホラーにおける幽霊表象」です。「幽霊」とは古今東西さまざまな形でイメージ化されてきましたが、時代によって、あるいはメディアの変化によって、近年ではその表象も大きく変容しつつあります。私はその通時的な次元を視野に入れながら、あるいはその地域ごとの文化的差異を視野に入れながら、現代のデジタル環境下における幽霊イメージを多角的に分析するつもりです。

二松学舎大学では過去数年間にわたり「幽霊の歴史文化学」共同研究がなされてきましたが、私としてはそこに関与された先生方と今後も議論を重ねながら研究を続け、将来は研究者として活躍したいと考えています。

修士課程2年
黄 聞茜 さん

私の研究テーマは「映画における悪女の身体表象」です。これまで文学研究の領域では「悪女」のイメージを扱った先行研究は数多くありますが、これに対して私の場合には、映画というメディウム、そのなかでもとくに日本映画におけるそれに着眼しながら、その歴史のなかでいかに「悪女」のイメージが構築されてきたのかを考察の俎上に載せてみたいと思っております。

修士論文の執筆にあたって具体的にとりあげたいと考えているのは、増村保造および蜷川実花の映画作品です。そして悪女の身体的なイメージ、およびその文化的／社会的役割を分析しながら、それがいかにして女性に関する道徳観念を規定してきたのかを捉えていきたいと考えております。

開講科目一覧

※科目名、授業内容は2023年度のものです。2024年度以降は変更となる場合があります。

文学・文化学講座

日本芸能・文化論講義Ⅰ・Ⅱ

近世（江戸時代）の演劇・芸能、もしくは広く文化史につき、文献資料の講読を中心に講義を進める。今期は明治時代に記された、江戸時代後期の社会風俗・年中行事についての文献を読む。日本の伝統的な風俗・習慣を知る中で、歌舞伎や落語など当時愛好されていた芸能との関連も知り得る資料。内容に関連する芸能作品は映像等で随時紹介する。また、学期中に一回の芸能実地鑑賞を実施する予定である。

日本語学講義

形態論を中心に日本語における「単語」という単位について検討する。本講義を通じ、言語の基本的な単位である「単語」と言語活動におけるもっとも小さな単位である「文」の区別を理解したうえで、日本語における語形変化（パラダイム）を把握する。現代日本語の「形態論的なカテゴリー」や「形態論的な形（語形）」を具体例に解説しながら、欧米や東アジアの諸言語との比較も加えて、日本語の「単語」についての理解を深めていく。

比較文学文化論講義Ⅰ

前漢の劉向が著した『列女伝』は、明代以降になると多くの「俗本」が著され、理想的な女性像を描く読み物として、また女性のための教科書として読まれた。日本では、『仮名列女伝』や『本朝列女伝』などの読み物としての「列女伝」があった他、劉向の『列女伝』に日本流のアレンジが施され、女子教育のための教科書として利用された本もあった。本講義では、劉向の『列女伝』を漢文訓読で読むと同時に、明治十一年に東京師範学校教授の松本万年が著した『参訂劉向列女伝』を通じて、明治期日本における『列女伝』の受容を中国と比較する。

比較文学文化論講義Ⅱ

韓流の重要な部分を占める韓国ドラマの映像を見ながらシナリオを精読することによって、韓国語のさまざまな表現を学ぶとともにドラマの中に現れる韓国文化を理解し、日本における韓国文化の受容について考える。

比較文学文化論講義Ⅲ

日本・中国・韓国に跨がる文化の根幹に秦漢～魏晋南北朝時代の文化がある。本授業では、擬古派の領袖として知られる顧頡剛の『漢代学術史略』の読解をメインに、適宜、日本や西欧の古代文学・神話との比較を行う。受講生には必ず沢山の資料を読解したうえで口頭発表をこまめに行ってもらうため、高度な日本語能力の運用が必要となる。

比較芸術学講義

Drawing on examples ranging from prehistoric stone tool-making to the building of cathedrals, this course aims to acquire some ideas about the way in which material things are created and the meanings of design in accordance with a contemporary anthropological perspective. More specifically, we peruse "Making: Anthropology, Archaeology, Art and Architecture" by Tim Ingold, and share the ideas with the students.

国際日本学演習ⅠA・B

1858年の修好通商条約（安政の五ヵ国条約）により日本との外交関係を樹立した欧米列強の対日外交やその国内事情については、幕末開国史や明治維新にいたる国内の政争などに関する日本史研究にくらべ、その具体的事情があまり知られていない。そこで本演習では、英米仏を中心とする欧米列強の対日政策や日本観を比較検討するため、当該分野に関する一次史料、良質な研究文献の読解にとりくむ。SANSOM (G.B.), The Western World and Japan (1950)〔サンソム『西欧世界と日本』上・下巻，金井他訳（筑摩書房）〕の第1部（春学期）、第2部（秋学期）を読みすすめ、内容について議論する。

メディア表現学講座

メディア論講義

本講義ではテキストとして指定する『コンテンツのメディア論』（新曜社）に依拠しながら、そこに含まれるそれぞれの論考の精読をつうじて、現代文化を理論的に考察するための方法論を学習することになる。関連分野の基礎的な理論や概念を理解したうえで、それらを各自の身近な事例と関連づけて応用的に考察し、急速に変化しつつある現代文化／現代社会の構造を分析的に論述することができるようになることを目的とする。

表象文化論講義Ⅰ

この授業では、日本近現代の文化について多角的に考察する。過去の名著を導きとして、わたしたちが現在見ているモノの背景を考え、議論していく。日本の大衆文化について、理解を深め、自ら問いかけることができるようになることを目的とする。

情報文化論講義

現代のメディア環境の発展によって、言説(discourse)が生み出され、流通し、消費されていくそのプロセスもまた急速に変容しつつある。さらにそこには、言説をめぐる権力の在り方の大きな転換もまた生じている。たとえばSNS上での炎上は、マスメディアを中心とした言説流通の回路とは別のレベルで生じている言説的な力の行使であるといえる。同じくSNS上で急速に拡散していくフェイクニュースは、真理をめぐる権力闘争の現代的な表れであるとも位置付けられる。本講義ではミシェル・フーコーの言説論や権力論を踏まえた上で、メディアと言説の関係をそこで働いている権力の問題という観点から検討していく。

国際日本学演習ⅡB

本講義ではテキストとして指定する『日中文化のトランスナショナルコミュニケーション』（ナカニシヤ出版）に依拠しながら、そこに含まれるそれぞれの論考の精読をつうじて、現代文化を理論的に考察するための方法論を学習することになる。

社会文化論講座

都市文化論講義

今日、世界人口の半数が生活する都市という空間をめぐっては様々な現象や課題が見られ、また、都市の理解についても議論が大いに行われている。この点を踏まえて本授業の目的を述べると、都市という場で生じる様々な事例を通じて、都市という場所、空間について文化、社会、政治、経済などの観点から把握する事である。

観光文化論講義

観光を現代社会の重要な文化事象として捉え、その特徴を、擬似イベント、オーセンティシティ(真正性)、商品化、記号消費といった鍵概念を用いて論じ、明らかにする。とくに、観光とその対象となる文化の関係について考察する。従来、観光が文化に及ぼす影響については、伝統の変容や商品化といった側面が注目されてきた。それとかかわってオーセンティシティの成否をどうとらえるかは議論が分かれるところである。しかし、観光と文化の関連は一面的ではなく、両者の相互作用のなかで多元的な解釈が並存したり、新たな文化が創られたりする動態的な側面にも着目すべきである。そうした構築主義的な観点も視野に入れながら、これまでの研究事例を通じて、観光文化の創出の可能性を論じる。

歴史社会論講義

文献輪読を通じて戦争史に関する知識を習得するとともに、日本近現代史と歴史社会学の基本的な見方を身につける。

国際日本学演習ⅢB

現代における都市の変容は著しいが、その基底にあるのは脱工業型都市への転換である。グローバリゼーションの進展を背景にした、より高次の機能の集中は、都市に様ざまな変化を及ぼす。なかでも、脱工業型の都市に共通する大きな特徴は、都市が消費の空間へと変容することである。その消費も、単なる商品消費にとどまらず、エンターテイメントやスペクタクル、ヴァーチャル・リアリティやシミュラークルといったサービスや視覚やイメージの消費が重視されている。本演習では、現代都市の空間変容について、社会学的な視点からその特徴を学ぶ。さらに、<場所>の喪失と<空間>の拡大という現象や、再開発の過程で生じるジェントリフィケーションなどの問題系を視野に置きつつ、ディスカッションを通じて論点の理解を深める。

教員一覧

※2023年度の担当教員・担当科目等一覧です。2024年度以降は変更となる場合があります。
❶最終学歴 ❷専門分野 ❸最近の研究課題

松本 健太郎 教授/研究科長
まつもと けんたろう

担当科目 メディア論講義、国際日本学演習ⅡB

❶京都大学大学院 人間・環境学研究科博士課程修了、博士（人間・環境学）
❷映像記号論、デジタルメディア論、観光コミュニケーション論
❸ビデオゲームやバーチャル観光における「体験の技術的合成」

堀野 正人 教授/専攻主任
ほりの まさと

担当科目 観光文化論講義、国際日本学演習ⅢB

❶横浜国立大学大学院教育学研究科修士課程修了、修士（教育学）
❷観光社会学、都市観光論
❸都市における観光空間の表象・解読・パフォーマンスについて

塩田 今日子 教授
しおだ きょうこ

担当科目 比較文学文化論講義Ⅱ

❶ソウル大学校人文大学院博士課程単位取得満期退学
❷言語学、韓国語学
❸個別的事象に潜む全体性と互いに及ぼす影響について

中川 桂 教授
なかがわ かつら

担当科目 日本芸能・文化論講義Ⅰ・Ⅱ

❶大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）
❷日本芸能史（近世芸能興行史・寄席芸能史）
❸近世大坂の諸芸研究、武家・商家の芸能享受

野村 啓介 教授
のむら けいすけ

担当科目 国際日本学演習ⅠA・B

❶九州大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）
❷西洋史学
❸近代フランス政治社会史、日仏外交史、ヨーロッパワイン文化史

松浦 史子 教授
まつうら ふみこ

担当科目 比較文学文化論講義Ⅲ

❶東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（文学）
❷中国古典文化・文学・図像学
❸東アジアの王権と神話・祥瑞図の研究

足立 元 准教授
あだち げん

担当科目 表象文化論講義Ⅰ

❶東京芸術大学大学院美術研究科博士課程修了、博士（美術）
❷美術史、視覚社会史
❸社会派アートの歴史

ヴィグル マティアス 准教授
ゔぃぐる まてぃあす

担当科目 2023年度は担当せず

❶Université Lyon 3 - Jean Moulin Département de japonais
博士課程修了、博士（文学）（リヨン第三大学）
❷近世日本医学史，亜欧文化交渉
❸19世紀欧州東洋学者の国際ネットワーク

迫田 幸栄 准教授
さこた ゆきえ

担当科目 日本語学講義

❶大東文化大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程単位取得満期退学、博士（文学）（別府大学）
❷日本語学、日本語教育学、対照言語学
❸（1）言語コーパスに基づく日本語の記述と分析、形態論をはじめ、連語論及び構文論
（2）日本語教師の育成、日本語（国語）教育のための指導法及び教材の分析と開発

仙石 知子 准教授
せんごく ともこ

担当科目 比較文学文化論講義Ⅰ

❶大東文化大学大学院文学研究科博士課程修了、博士（中国学）
早稲田大学大学院文学研究科にて論文により学位取得、博士（文学）
❷中国文学・日中比較文化史
❸日本における「列女伝」の展開、メディアから見た「三国志」

谷島 貫太 准教授
たにしま かんた

担当科目 情報文化論講義

❶東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得満期退学
❷技術哲学、メディア論
❸ベルナール・スティグレールの技術哲学、哲学的概念としてのアテンション、
近年のテレビにおけるネットメディアとの連携

土井清美 准教授
どい きよみ

担当科目 比較芸術学講義

❶東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）
❷文化人類学、フィールドワーク論
❸身体や自然における不確実性との向き合い方

林 英一 准教授
はやし えいいち

担当科目 歴史社会論講義

❶慶應義塾大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学、
博士（社会学）（一橋大学）
❷日本近現代史
❸残留兵士の表象と実像

麻生 将 専任講師
あそう たすく

担当科目 都市文化論講義

❶立命館大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）
❷人文地理学、近代日本の地理思想とキリスト教思想
❸近代日本のプロテスタント教会の立地と都市形成との関係について

教育・研究環境

入学から修了までの流れ

学部卒業 ／ 社会人 ／ 留学生（国内・海外）

修士課程

標準修業年限2年（最長在学年限4年）

入学時期	研究指導教員の決定
	研究テーマの選定
	個別履修計画
履修要件（30単位以上＋研究指導）	講義科目　26単位以上
	演習科目　4単位以上
	研究指導
修了時期	修士論文の審査
	最終面接試験

修士（文学）学位授与

- グローバル企業等への就職
- 二松学舎大学（文学研究科）、国内外他大学博士後期課程への進学

国際日本学研究科の時間割

	月～金曜日	土曜日
2時限	10:50～12:20	10:50～12:20
3時限	13:00～14:30	13:00～14:30
4時限	14:50～16:20	14:50～16:20
5時限	16:40～18:10	—
6時限	18:20～19:50	—
7時限	20:00～21:30	—

※土曜日の科目は年度によって開講されない場合があります。

履修形態

国際日本学研究科における教育は、指導教員による「研究指導」と授業科目の履修によって行われます。授業科目の選択・履修は、各自の研究分野に必要な科目を、指導教員の指導を受けつつ、行います。このほか、夏期・冬期の長期休業期間に集中講義を開講する場合があります。

多様な教育・研究制度

◎研究生

大学学部卒業者以上を対象とした研究制度です。特定の専門事項について研究を志願する者を選考のうえ研究生として受け入れ、研究指導を行います。

◎科目等履修生

科目等履修生とは、一般社会人等に対してパートタイムによる学習機会を拡充し、その成果に適切な評価を与える（単位認定する）ことを目的として設けられた制度です。

本大学院でも1科目または複数の授業科目の履修を希望する方を、科目等履修生として積極的に受け入れています。履修期間は原則として1年間になります。

都心の九段キャンパスで学ぶ

東京都心、そのさらに中心に位置する千代田区三番町。
皇居周辺の桜や靖国通りの銀杏並木など、都心にありながら、
四季折々の美しい佇まいを見せる街です。
秋葉原や神保町の古書店街など研究に欠かすことのできない街も
徒歩20分圏内に集中しており、研究に向き合う環境が整っています。
都心の九段キャンパスで歴史の息吹と文化の薫りを存分に満喫してください。

施設・設備

図書館（1号館）
約20万冊を収蔵。柏キャンパス（千葉県）の図書館は約14万冊を収蔵しています。

プレゼンテーションルーム（2号館）
多面プロジェクター、電子黒板が整備された次世代型学習施設です。

国際日本学共同研究室（5号館）
ディスカッションスペースと個人研究スペースを適切に設けております。

2024年度入試情報

募集定員

課　程	入学時期	
修　士　課　程	4月入学	10名
	9月入学	10名

試験日程等

10月試験（4月入学）	
願書受付期間	2023年9月7日（木）～9月19日（火） 締切日消印有効
試　　験　　日	筆記試験・面接試問　2023年10月1日（日）
合　格　発　表	2023年10月13日（金）
入学手続締切日	2023年10月25日（水）締切日消印有効

2月試験（4月・9月入学）	
願書受付期間	2024年1月15日（月）～2月2日（金） 締切日消印有効
試　　験　　日	筆記試験・面接試問　2024年2月18日（日）
合　格　発　表	2024年2月26日（月）
入学手続締切日	2024年3月4日（月）締切日消印有効

6月試験（9月入学）	
願書受付期間	2024年5月13日（月）～5月24日（金） 締切日消印有効
試　　験　　日	筆記試験・面接試問　2024年6月8日（土）
合　格　発　表	2024年6月14日（金）
入学手続締切日	2024年6月28日（金）締切日消印有効

試験科目等

	試験種別	試験科目等
国際日本学専攻	一般 外国人留学生	○小論文 複数の専門領域の中から1科目選択（60分） ○面接試問

出願資格

修士課程

（A）一般入試を受験できる者は、次の各号の1つに該当する者

（1）大学を卒業した者及び本学入学時までに卒業見込みの者
（2）学校教育法第104条第7項の規定により学士の学位を授与された者及び本学入学時までに授与される見込みの者
（3）外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び本学入学時までに修了見込みの者
（4）文部科学大臣の指定した者
（5）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び本学入学時までに修了見込みの者
（6）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び本学入学時までに修了見込みの者
（7）専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び本学入学時までに修了見込みの者
（8）外国の大学その他の外国の学校において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
（9）学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者であって、本大学院国際日本学研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
（10）本大学院国際日本学研究科において、個別の受験資格審査により大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、22歳に達した者
〔注〕出願資格（9）、（10）で出願する者は、事前に本学大学院国際日本学研究科の受験資格審査を受け、認定を受けることとする。

（B）外国人留学生入試を受験できる者は、上記（A）（3）に該当する者、又は上記（A）の入学資格を有し「留学」の在留資格をもつ者

学費

修士課程

	入学手続時に必要な金額	入学後指定期日までに必要な金額	入学年度に必要な金額の合計	備　考
入学金	250,000円	—	250,000円	本学出身者は無料
授業料	260,000円	260,000円	520,000円	
施設費	50,000円	50,000円	100,000円	本学出身者は半額
その他	11,430円	—	11,430円	本学出身者は6,430円
合　計	571,430円	310,000円	881,430円	

※2年次は授業料および施設費と、松苓会（同窓会）終身会費15,000円を徴収します。
※学納金は春学期分は6月、秋学期分は11月に納入。

2023年度 入試結果（10月・2月入試）

試験種別	10月試験		2月試験		合　計	
	志願者	合格者	志願者	合格者	志願者	合格者
一般入試	1	1	1	0	2	1
外国人留学生入試	7	4	12	10	19	14

※6月試験は除く。

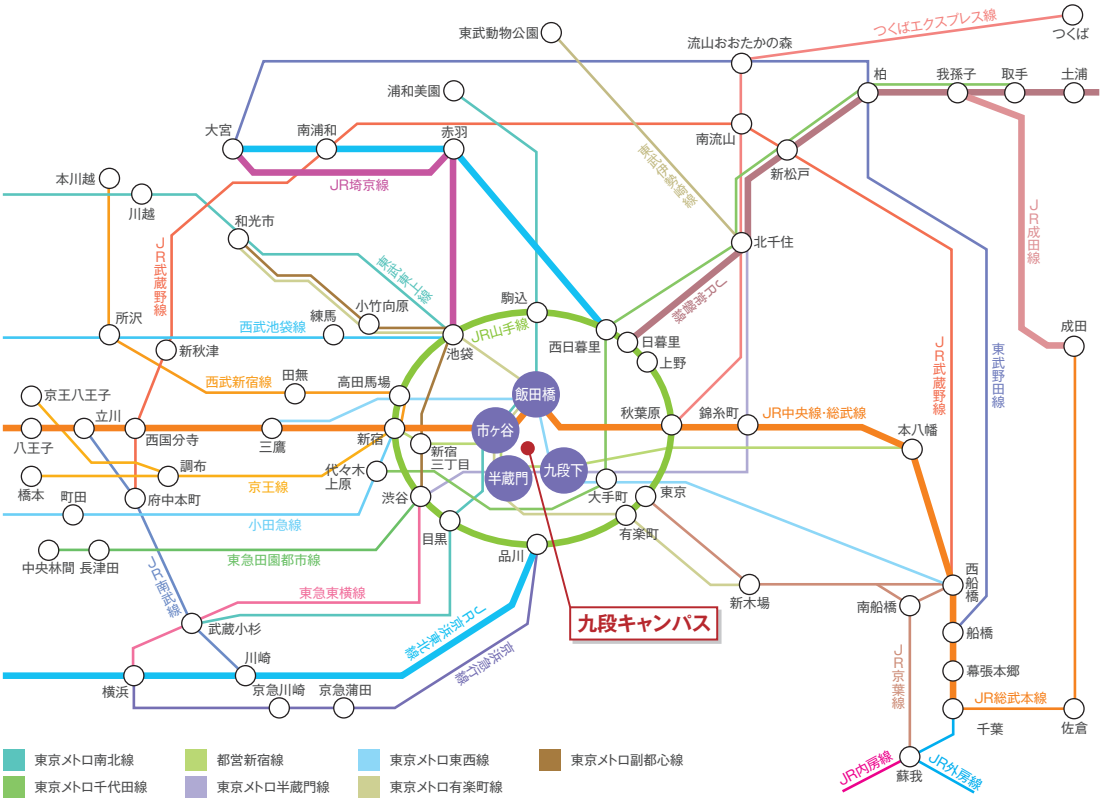
九段キャンパス

アクセスに優れた文化・経済の中心地で。

東京の中心、千代田区三番町に位置するキャンパスは、新宿・大手町・渋谷・池袋などの主要駅に30分以内でアクセスできる環境にあるため、貴重な時間を有効に活用できます。

- 東京メトロ東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅下車、2番出口より徒歩8分
- JR線・東京メトロ有楽町線・東西線・南北線「飯田橋」駅下車、西口より徒歩15分
- JR線・東京メトロ有楽町線・南北線・都営新宿線「市ヶ谷」駅下車、徒歩15分
- 東京メトロ半蔵門線「半蔵門」駅下車、5番出口より徒歩10分

Access Map



二松學舍大學
大学院／国際日本学研究科

お問い合わせ　入試課
〒102-8336　東京都千代田区三番町6-16
TEL.03-3261-7423　FAX.03-3261-8904
E-mail : nyushik@nishogakusha-u.ac.jp
ホームページ　https://www.nishogakusha-u.ac.jp/admission/

2022年10月に145周年を迎えました 145th anniversary since1877

Japan University Accreditation Association since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED 2021.4～2028.3

23060300